

# 美山だより 2013・なつ

皆様、お元気ですか？ 今アースガーデンでは、太陽熱温水器のお湯で入浴やシャワーがほぼ100%まかなえる季節です。私の美山町での生活もこの8月で11年になります。650㎡という田舎にしては小さな敷地内に「食べられるお庭(=edible garden)」を作ってきましたが、今日はそのお庭のユニークなデザインのひとつ、敷地内北側のタラノキ生け垣のお話です。

今から10年程前、近くに自生していたタラノキを7本ほど、近所の方が掘り上げて届けてくださいました。するどいトゲのある野生種で、外からの侵入防止に役立ちそうだったので、生け垣のように植えました。春にはタラノメがたくさん収穫でき、友人知人にもお裾分けしてきました。(写真①) 一枝につき頂芽(一番上の芽)を2番芽まで収穫した後、5月末にその枝の下部の芽を1~2個残し、枝元より10cm位上の所を切り倒します。するとすぐに新しい枝が伸びて、夏にはこのような目隠し生け垣になります。(写真②) 落葉樹なので、秋には葉を落としてまたスケスケ生け垣になります。初冬~早春は外の通行人はほとんど地元の顔見知りの人たちなので、スケスケでもあまり気になりませんでした。このような剪定方法を毎年繰り返すと、春には手が届く高さでタラノメが収穫でき、その後に枝を伐採しても、アユ釣り客でにぎわう初夏以降はタラノキが茂って生け垣となり、プライバシーを保護してくれました。



写真①タラノメ

さて5月にタラノメを収穫した後に伐採したタラの枝も、重宝して活用していました。トゲの生えた枝を鋸で切るのは工夫が必要でした。私は怪我をしないように、タオルをトゲトゲ枝に何重にも巻きつけてその上を左手で掴み、右手で鋸を使って剪定作業をしていました。切られたトゲトゲ枝のほぼ全てをガーデンの周りに置きました。アライグマ、ハクビシンなどの動物の侵入防止のためです。うちの菜園には野生動物のエサになるミミズがたくさんいて、植床が掘り返され作物が被害を受けたことがありました。そこでトゲトゲ枝を何本か植床の作物の間と、植床の周囲に置いたところ、掘り返し被害がストップしました。現在、農村では多くの野生生物の作物被害が発生しています。私はトラバサミのような残酷なワナの使用には反対ですが、植物が野生生物から自らを守る為に進化させたトゲを活用する程度のことにはします。このように自然の力を借りることで、自分の菜園を守ってきました。獣よけに置かれたタラノキ剪定枝は日光や風雨にさらされ、冬にはトゲもなくなります。それを再び集めて薪ストーブで燃やし、灰をまたガーデンに返してきました。



写真②タラノキ生け垣(北側 Before)

このようにアースガーデンの循環の仕組みのひとつとして活用されていたタラノキ生け垣は、今もうありません。すでに皆様にお伝えした酒造工場とそのアクセス道路の工事が、いよいよ着工するとの知らせが6月にあり、着工に先だってここに、石垣を立ち上げて板塀を作ってもらったからです。(写真③) 着工後は大型の工事車両が連日外を行き来し、酒造工場完成後は大型バスその他の車両が外を通行するので、年間の一時期のみ目隠し効果のあるタラノキ生け垣では不十分です。年間を通じてプライバシー保護、ガーデン環境/景観の保全のための遮蔽物が、今後必要となったからです。何度も要望書を出した結果、北側にはこの地域の景観にふさわしい風情のある板塀を酒造会社に作っていただきました。(注1) でも私は「食べられるお庭」のコンセプトにふさわしいタラノキ生け垣の方が、アースガーデンらしかったと思っていますし、とても懐かしいです。



写真③板塀(北側 After)

注1：北側には塀ができたものの、道路と隣接するアースガーデン東側の塀や植樹についての具体的なことが決まっています。酒造会社に対して7/8付で話合いのお願いをしていますが、まだお返事がなく不安な気持ちでいます。